

社交不安症に対する視線トレーニング装置を利用した 臨床研究をスタート！

— 週1回20分、8週間のトレーニング参加者を募集 —

千葉大学医学部附属病院（千葉市中央区：病院長 横手幸太郎）は、当院認知行動療法センター（センター長 清水栄司）、千葉大学フロンティア医工学センター（センター長 羽石秀昭）及び大日本住友製薬株式会社（大阪市中央区 代表取締役社長 野村博）と共同で視線トレーニング装置「アイ・コミュニケーション・トレーナー(ECOM)」の試作品を開発し、社交不安症に対する臨床研究をスタートします。

本臨床研究では、週1回、当院認知行動療法センターにご来院いただき、メガネ型の装置を着用したあと、机上のモニター画面上に映し出される人や動物を、指示されたように見ていただきます。

この装置で練習した視線の向け方を日常生活で生かして、人前での視線に対する恐怖や不安に対処できるようにしていただくことを目指します。

■ 社交不安症とは

社交不安症/社交不安障害（SAD: Social Anxiety Disorder）とは、他者の注視を浴びる社交場面に対する著しい恐怖や不安を本質的な特徴とする疾患（American Psychiatric Association, 2013）

■ 視線トレーニング装置とは

共同開発した視線トレーニング・ソフトウェア「アイ・コミュニケーション・トレーナー(ECOM)」トビー・テクノロジー株式会社製のメガネ型視線計測装置Tobii Pro グラス2®を組み合わせた装置



トレーニングの様子

■ 募集概要

- ・ 募集人数 24名
- ・ 対象者 社交不安症の症状があり、日常生活に困っている18歳～65歳の方
- ・ 参加条件 およそ週1回（全8回）の来院が可能な方
- ・ 実施内容 メガネ型の装置をつけ、人の顔などの映像を見ながらトレーニング（1回約20分）
- ・ 申込方法 以下のURLからお申込み願います
<https://www.cocoro.chiba-u.jp/recruit/eye-contact>
- ・ 申込期限 2021年8月15日

■ 清水栄司 認知行動療法センター長のコメント



欧米人は相手の目を見て話すことを子どもの頃からしつけられますが、お辞儀をあいさつとする日本人は、つい緊張のあまり、人前で（特に目上の人に対して）目を伏せたり、そらしたりしがちです。この視線トレーニングで対人関係に自信をつけましょう。

<取材のお申込み・お問い合わせ先>

千葉大学病院 病院広報室 吉沢・高井・丸山

Tel : 043-226-2225 Fax : 043-224-3830 E-mail : byoin-koho@chiba-u.jp